

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

発達支援センター 心理相談室 第7回 講演会

明日からできる 応用行動分析学を用いた発達障害支援

～園、家庭、学校での具体的活用～ 講師 山本 淳一先生

心理相談室では、地域の皆さんと発達障害に関する理解を深めていくことを目的に、年一回講演会を実施しています。今年は「明日からできる応用行動分析学を用いた発達障害支援」というテーマで、慶應義塾大学の山本淳一先生にお話しいただきました。寒い中定員いっぱいの方にお越しいただき、保護者の方や園や学校、関係機関の先生方など様々な方に聞いていただくことができました。

講演はまず、『環境を整え、本人のもつ良い行動の種類と数をふやす』という応用行動分析の基本的な考え方についてお話をいただきました。「やめなさいやめなさいと問題を取り除こうやめさせようとするのではなく、未学習の行動やスキルを学ばせると考えましょう」「良い所に注目して伸ばしましょう」そして、「手助けする大人が考え方・見方を変えましょう。明日からでもできます。」というお話に会場の皆さんもとても熱心に耳を傾けうなづかれていました。また、「良い所、伸びそうなところを見つけるのがプロの仕事」「自分をわかって褒めてくれる先生の指示は聞けるようになる」というお話には、私たちスタッフも改めて身が引き締まる思いでした。

続いて、家庭や園・学校でできる支援の方法について具体的なアイデアも交えながらお話していただきました。

こちら、まさに『明日から』できる！やってみよう！と思えるお話でした。まず、園や家庭でできる支援方法として、日常生活を安定させ、コミュニケーションの基礎を育むポイントを説明していただきました。パズルやおままごとなど、いつも使っているようなおもちゃで遊んでいる時や、子どもに鼻をかませるときでさえも、大人の働きかけ方によってたくさんのコミュニケーション指導の機会を作ることができるというお話など、日常生活の中で取り入れることのできる支援をたくさん聞くことができました。学校での支援は、学習、授業参加、対人関係などにおいて適切な行動を増やすための具体的な支援の仕方を教えていただきました。子どもが発表・発言した時にクラス全体で拍手をすることで、その子の良い行動を増やすことにつながり、クラス全体の集中注目を高めることにもつながるなど、すぐに取り入れることができそうな支援ばかりでした。また、対人関係のトラブルが生じた子どもに対して視覚的に状況を整理しながら話す方法については、実際の場面を見ながら説明していただきました。何をどのように伝えるのか、子どもの情緒的な訴えにつられずに伝えるなど、プロのテクニックも見ることができました。

参加された方からは、「とてもわかりやすく、具体的でよかった」「明日からの指導にすぐに取り入れたい」という感想をたくさんいただきました。また、ある学校の先生から「明日子どもたちに会えるのが楽しみです」という感想をいただいたのが印象的でした。これからも、地域に向け情報を発信し、地域の皆さんと一緒に子どもたちを支援できるよう努力していきたいと思えます。

(心理判定員 堀越 宏子)



心理相談室 講演会の様子

家族支援プロジェクト 第8回 玉井邦夫先生 講演会

家族支援プロジェクトは、平成21年より肢体不自由または発達に心配のあるお子さんのご家族が、元気に子育てしていけるよう支援することを目的に、当センター後援会、田中基金の助成を受けて、交流会や講演会を開催してきました。

今年度第3回、10月2日(日)に大正大学玉井邦夫先生の講演会『子どもと親がともに育ち合うために ～ゆっくり一歩ずつ』を開催しました。「家族」を生きたシステムとしてとらえ、そこに発達の偏りのあるお子さんが加わることで変化していくさまざまなプロセスについて、エピソードを交えながらわかりやすくお話いただきました。そして、様々な立場から家族を支えるネットワークを築いていくこと、上手に「困り」ながら、どのように生活の中へ支援を取り入れていくかなどについてアドバイスを頂きました。会場に集まった約70名のご家族の方々は、時には玉井先生のユーモアに笑ったり、時にはころに沁みることばに涙したりして、熱心に耳を傾けられ、2時間の講演会はあっという間に過ぎてしまいました。参加者からは「家族について改めて考える機

会になった」「少し見通しが持てるようになった」などの感想を頂きました。大人の“親としての歳”は“子どもの歳”と同じなのだということを忘れずに、子どもの気持ちに寄り添って親子ともに育ち合っていくことを、ご家族も、私たち支援者もこころに刻んだ貴重な講演会となりました。

(言語聴覚士 志村 みさと)



玉井邦夫先生

家族支援プロジェクト 講演会の様子



第9回 家族支援プロジェクト 先輩パパの体験談を聴く会&交流会

12月4日(日)に「先輩パパの体験談を聴く会&交流会」を開催致しました。発達に心配のあるお子さんのご家族や関係者など、師走の繁忙期にも関わらず多くのお父様を含め、25名程のご参加をいただきました。前半では4人の先輩パパの体験談を伺い、後半の交流会では小グループに分かれて、先輩パパ、参加者のみなさまと身近な相談や意見交換の場を持つことができました。

共に困難を乗り越えることで親子が互いに成長しあえる男旅の楽しさと充実感を語ってくださるパパ。ご自身がお子さんの障害を受け入れていくまでの心の葛藤や、その後の子どもに対する思いの変化、そして父親として子どもや奥さまにどの様なことを心掛けて接してきたのかをお話くださったパパ。なるべく子どもを外や地域に連れ出して、色々な体験をさせると共に地域に子どもの存在を知ってもらって、たくさんの出会いと地元のファンを作ろうと心掛けているパパ。障がい云々よりも、形ではない友情や気持ちのネットワークを築くこと、わかってもらえない！と諦めるのではなく、コミュニケーションをとり続けていくことの大切さをお話くださったパパ。

どのお父様もあるがままの子を受け入れ、理解するまでに様々な葛藤や苦悩を経られ、お仕事や家庭の諸々になんとか折り合いをつけることで、子育てに向き合ってきた経緯や思い、その上で親として夫として、子どもやパートナー、さらに自分自身をどう支えていったか、という実感にあふれたお話をしてくださいました。また夫婦で労い支え合って、明るい家庭を築くことが何よりだ、とみなさん口をそろえて仰っていました。そして大事な局面では父親の存在が大きな意味や力を持っていて、それが外部(学校や地域)にも内部(家族)にも大きく影響してくると力強く提言してくださいました。

交流会でも、普段なかなか口にされないご苦労をお父様方(男同士)、またご家族と共有することで、明日へのエール、元気とヒントをいただけただけではないでしょうか。

(地域連携情報室 市川 香織)



第4回 PT科主催 保護者交流会



～ 後まわしな自分に…アロマの香りを… ～

11月25日(金)、当センター厚生棟研修室にて第4回保護者交流会「かるがも」が開催されました。今回はアロマセラピストである森本俊子先生にお越し頂きました。開催に先駆けて院内に「後まわしな自分に…アロマの香りを…」といった副題のついたポスターを掲示しました。個人的に「アロマ」には興味がなく人が集まるか不安でした。前回までは「子育て相談」という大きなテーマがあったのである意味「かるがも」は継続性のある保護者交流会でした。しかしながら今回は「子育て」とは直接関係のない「アロマ」がテーマであった為、不安は一層だったのです。「子育てが忙しく時間が作れない保護者にリラックス出来る時間の提供をするのだな」と個人的に解釈するようにしました。

個人的な思いは兎も角、森本先生による「アロマの講義」が始まったのです。アロマの香りどころからだが癒されるのです。まず先生は自然の香りはどうやって作られるか説明を始めました。そして驚くべき光景を目にしました。何と保護者が講義に集中しメモまで取っているのです。アロマって人気があるのですね。個人的な思いは兎も角、次のお話は「アロマセラピーの作用」です。ころへの作用とからだへの作用があると説明して頂きました。解剖学的にも説明されてとても納得の行くものでした。勿論、保護者はしっかりと

先生のお話を聞いていました。最後は「いろいろな香りを試してみよう」ということで実際に色々な香りのアロマオイルを試しました。香りによって様々な作用があるようです。そして各保護者が必要としている香りを使ってアロマクリームを作りました。そこで二度目の驚くべき光景を目にしたのです。あるお母さんが手や腕、首など露出している肌にもすごい勢いでアロマクリームを塗り始めたのです。思わず「そんなに塗って大丈夫ですか？」と訊いてしまいました。「気持ちが良い！良い匂い！」と答えていました。アロマって凄く人気があるのですね。

茶話会は先生も交えて盛り上がっていました。終了時間になっても皆さん帰ろうとしません。それ程、盛り上がっていたのです。今までの「かるがも」では見られなかった保護者の「元気」がみられました。アロマセラピーは人を元気にさせる力があると知りました。素晴らしいです。

最後に森本先生からのメッセージを書きます。「育児をするお母さん自身の休養とリラックス、健康(からだ&こころ)、自分らしい時間や楽しみ、喜びも大切に…」

(理学療法士 杉沢 英浩)



森本俊子先生 アロマ講義の様子



Q

家事をしている時に、一緒に遊びたがるので、「終わったら遊んであげるから、待っていてね」と伝えるのですが、かんしゃくを起こしてしまいます。どうしたら待てるようになりますか？



A

遊んであげられない場面はどのご家庭でもあると思います。そんな時にかんしゃくを起こされてしまうと、用事を済ませることもできないし、お子さんからも離れられなくてお互いイライラしてしまいますよね。しかし、お子さんの立場からすると、「待つ」という言葉が具体的にどんなことをすればいいのかわからないのかもしれないかもしれません。また「終わったら」についても、具体的にいつまでなのかわかりにくい可能性があります。

そこで、「待つ」ことを具体的な事柄に置き換えて、例えば「絵本を読んでいてね」、「お絵かきしていてね」など、お子さんが一人でできる好きな遊びにして伝えてみましょう。簡単なお手伝いをお願いするのもいいかもしれません。次に時間ですが、時計が読めるお子さんには、前もって、「いつまで」を具体的な時間で伝えておくのがいいでしょう。時計が読めないお子さんには、時計にシールや矢印を貼り、「長い針がシールのところまできたら、一緒に遊ぼうね」と目で見てわかるように、時間を伝えてあげることが大切です。

最初から長い時間待っていることは難しいので、まずは短い時間から始めて、徐々に時間を長くしていくこと、待っていられた時だけでなく、待っている間にも「一人で絵かきできてえらいね」、「お手伝いじょうずね」とたくさん褒めてあげてみましょう。

(心理判定員 菊地 文)

創立50周年～そして未来へ

私の“感”点

— 障がいを超えた社会へ

島田療育センターは今年度で創立50周年を迎えました。揺れ動く障害福祉制度の中、2011年の7月29日には「改正障害者基本法」が成立し、8月5日に公布されました。同法は「全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重され…分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する」ことを目的として、今後の障害者支援の根幹をなすものです。今回のシンポジウムでは、障がい当事者を中心に、それぞれの立場からの感じ方や観点をお話いただき、共生社会の実現に向け、障害者の自立や社会参加、当センターの地域での役割を考える機会になればと思います。

- ◆主催：島田療育センター（東京都地域の拠点機能支援事業）
- ◆後援：多摩市、八王子市、稲城市
- ◆実施日時：2012年2月26日（日）午後1時～4時半
- ◆会場：パルテノン多摩小ホール
- ◆対象：地域住民や関係機関など
- ◆参加定員：250名（申し込み先着順）
- ◆参加費用：無料
- ◆お申し込み方法◆

お名前、ご所属、参加人数をご記入の上、下記FAX、メール又はホームページの専用フォームよりお申し込みください。
（ホームページより申込書のダウンロードができます。）

FAX 042-374-2089

E-mail info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL http://www.shimada-ryoiku.or.jp

地域療育等支援事業のご案内

- ①外来療育等支援事業（療育相談）
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
①の窓口は... 医療相談課 TEL042-374-2638(直)
 - ②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。
 - ③訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。
②③の窓口は... 地域連携情報室
TEL042-374-2101(直)
- 費用は...①②③とも無料です。

シンポジウム 内容

第1部 基調講演

堀越 喜晴 氏

（立教大学兼任講師・明治大学非常勤講師）
盲当事者の立場から共生社会の実現に向けた「バリアオーバーコミュニケーション」についてお話しいたします。

高山 恵子 氏

（NPO法人 えじそんくらぶ代表）
ご本人を含め、発達障害をお持ちの方々との理解と支援について、今後の共生社会の実現に向けたメッセージを発信していただきます。

綿 祐二 氏

（文京学院大学 人間学部教授）
地域において自立・共生をめざした寄り添う援助について、ご家族や福祉施設におけるご経験に基づいてお話しいたします。

第2部 自由討論

次回「かるがも」のおしらせ

日時：2012年2月16日（木）10～12時

場所：島田療育センター 厚生棟 研修室

内容：①「食べる」についてのお話
②調理方法について（実演・質疑応答）

講師：島田療育センター 管理栄養士 小林 弘治

対象者：PT外来訓練を利用されている乳幼児のご家族

参加費：一家族 200円（お茶代）

申し込み：担当のPTへお問い合わせください。

（2月10日（金）締め切り）

保育はありませんが、お子様同伴は大丈夫です。

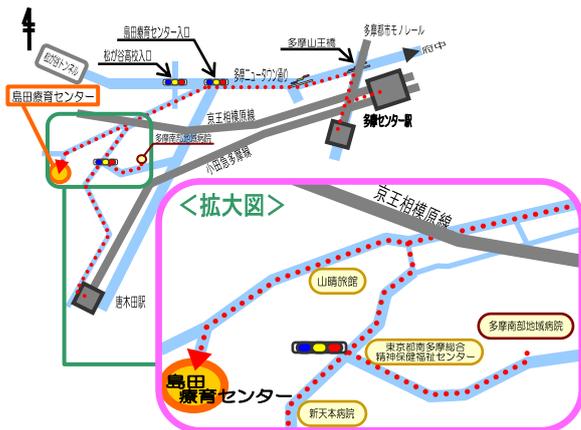
50周年記念式典

島田療育センターでは、平成23年度に創立50周年を迎えました。2月7日には記念式典を京王プラザホテル多摩で開催します。関係官庁、自治体・関係諸団体の代表約150名をご招待し、当センターを支えてくださった団体等に感謝状を贈呈いたします。済生会理事長の炭谷茂様に「重症心身障害児施設の今後」と題する記念講演をしていただきます。当センターはちおうじ所長小沢浩が「『愛することから始めよう』の執筆に際して」をお話します。

編集後記

2月4日は立春。この日から立夏の前日までが暦の上では春となります。嬉しいですね、春♪ 節分の豆まきは立春を年初めとして、その前日の2月3日に新しい年の幸運を願う古くからの習わしが、なぜ豆まきなのでしょう？一つは「魔目を打つ」が語源とされ、それから鬼の目を打つ、鬼に豆「魔目」を打つ「投げ」になったそうです。みなさんも季節の行事楽しんでくださいね。（市川）

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電話：042-374-2071（代表）
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分